

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04279

研究課題名（和文）東アジアの高齢者ケアとケアギヴァー：異なる福祉発展段階での市場化政策とその影響

研究課題名（英文）Care and the Care Giver of the Elderly in the East Asian Countries

研究代表者

朴 光駿（PARK, KWANGJOON）

佛教大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：30351307

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：この研究が明らかにしたのは次の3点である。第一に、1990年代以降、ケアサービス領域の市場化が進められてきた日中韓における高齢者ケアの実態と変化、ケアギヴァーの状況を比較の観点から明らかにしたこと、第二に、ケア領域における市場化政策は、とくに福祉発展の初期段階にある中国社会においてより深刻な影響を与えていること、第三に、介護施設入所か在宅介護かの選択においては、婚姻の形態（法律婚、事実婚、妾）も重要な影響を与えていること。研究の成果は、日本・中国・韓国で開催された学会会議や、国際会議において数回にわたり報告し、単著としても公刊した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者介護領域における東アジア比較研究は、それぞれ異なる社会経済発展段階で実行された介護政策の成果と影響が異なることを実証した。日中韓の高齢者ケア領域においては、1990年代以降「市場化政策」が推し進められてきており、その点においては共通しているが、すでに1990年代の時点で、三国の福祉発展段階（脱商品化の水準）にはかなりの格差が存在していたので、それが三国の間に異なる影響を与えていることが実証された。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the following three points. First, the situation and changes in elderly care in Japan, China and Korea from a comparative perspective. Second, the privatization policy in the long-term care for the elderly has a more serious impact on Chinese society, relatively in the early stages of welfare development. And thirdly, in the choice of residential care or family care, the form of marriage (legal marriage, Common-law marriage, concubine) also has an important influence.

The research results of the study has been reported several times at academic conferences or international conferences held in Japan, China, and South Korea, and at international conferences, and published as a single book.

研究分野：東アジア比較社会政策

キーワード：東アジア 比較研究 高齢者介護

1. 研究開始当初の背景

研究が開始された2017年は、中国で公的介護保険のモデル事業が始まって間もない時期であった。韓国は2008年から介護保険制度を実施し、日本は2000年から介護保険を実施していたので、2017年の時点で東アジア3国ではそろって高齢者のための介護保険制度がスタートしたことになる。

高齢者の介護問題を社会保険方式で対処するという点においては、日本・中国・韓国が共通している。ただ、広く知られているように、日中韓の間には社会体制や政治体制において異質性が目立つ地域である。中でも福祉発展段階ないし財政状況においてはかなりの格差が存在する。日本の介護保険制度には市場原理が大幅に導入されたが、韓国においてもそうした傾向が確認される。また、中国は介護保険制度を既存の医療保険制度の中に包含し運営するという形式をとっているが、医療保険制度そのものに市場原理が濃厚に盛り込まれていた。従って、日本・中国・韓国の介護制度においては市場化政策が積極的に取り入れられたことになる。

しかし、社会保険制度の運営に市場原理を導入したとしても、その影響はそれぞれ異なる。それは、各国の財政状況を含む福祉発展状況にかなりの格差が存在するからである。この研究は、「それぞれ異なる社会経済発展段階で実行された市場化政策の影響に関する比較研究」を目指すものであった。

また、家族の介護負担は高齢者の要介護度によって異なるが、ケアギヴァーのケア負担は介護内容や労働条件によって異なる。例えば、中国中小都市においては、共働き家庭でも親世代の在宅介護が一般的になっている。その背景には、近距離出勤と2時間ほどの昼食時間(昼休みに帰宅し介護することが可能)入浴介護にかかる負担が日本に比べて著しく軽いということ(週2回のシャワーが一般的)などの事情があることが応募者の予備調査によって明らかになっていた。

ケアとケアギヴァーをワンセットとして考察することが重要であるという指摘は2000年代に入ってからヨーロッパを中心に提起されてきた。ケアを必要とする人々だけでなく、彼らにケアを提供するケアギヴァーが社会から排除されていく厳しい現実を直視し、ケアギヴァーをも社会的に排除された人々の範疇に入れて論議するようになっていたのである。

以上のような東アジアおよび国際的動向から、本研究では異なる福祉発展段階における市場化政策の影響に注目し、ケアとケアギヴァーをワンセットとして捉える視点に立って研究を進めるようになった。

2. 研究の目的

研究の目的は次の3点である。

第一に、1990年代以降、ケアサービス領域の市場化が進められてきた日中韓における高齢者ケアの実態と変化、ケアギヴァーの状況を比較の観点から明らかにしたことである。そのために、3国における高齢化の進展、要介護高齢者の推移、高齢者福祉施設の整備状況などを比較の視点から明確にする。

第二に、市場化の影響が日中韓において異なっているのは、市場化政策が導入された時点での高齢者ケア施設の整備状況など福祉発展水準の違いに起因するものであることを明らかにすることである。とくに福祉発展の初期段階にある中国社会において、介護制度における市場化政策の導入が、とくに低所得者の介護問題にどのような影響を与えているのかを実態調査を通して明らかにすることが重要な研究目的であった。中国におけるケア・ケアギヴァーの地域間格差は、介護施設に対する公共部門の整備がスタートする前の段階で市場化政策が行われたことにその原因があると思われる。低い水準の福祉発展段階で実施される市場化政策が、直ちにケアギヴァーの社会的排除につながるということは多くの先行研究によって論議されてきたが、ある程度の水準においてケアの脱商品化が達成された国においても、ケアギヴァーが社会的に排除されつつある存在になっていることが指摘されている。

第三に、介護施設入所か在宅介護かの選択においては、高齢者の婚姻の形態(法律婚、事実婚、妾)も重要な影響を与えていることを明確にし、東アジアの多様な家族形態は介護の形態を選択することにおいても重要な要因として働いていることを明らかにすることである。例えば、韓国において保守的家族観の強い地域の高齢者介護施設の場合、非法律婚の女性高齢者の入所率がかなり高くなっていることが聞き取り調査によって証明されている。

また、「チャイルドレス高齢者」の介護問題は、中国と日本において明らかに異なる意味を持つ。中国の失独家庭(現在100万世帯以上)と、日本・韓国におけるチャイルドレス高齢者世帯は、その歴史的背景も、そして政府に対する政策要求の度合いも全く異なる。中国では国家政策によって一人っ子を出産した後、子どもが死亡することによってチャイルドレス高齢者の介護問題が発生しているため、当事者たちは国家に対し、介護保障を強く要求する傾向がある。しかし、日本のチャイルドレス高齢者の場合、未婚がチャイルドレス高齢者の重要な原因になってい

る。

3. 研究の方法

本研究は3年間の研究として設計された。研究方法は「文献研究」と「聞き取り調査」を併用した。

文献研究の対象は、日中韓の高齢者ケア政策に関わる主要な法令と政府文書をはじめ、ケア・ケアギヴァーに関する先行研究と調査資料であった。また、政府や公的機関が実施した関連調査報告書、研究者による調査資料も収集し、参考にした。こうした文献研究を通して、日中韓の高齢者ケア政策の発展過程を確認し、特に1990年代以降の動きを明らかにし、三国間の相違点と共通点を明らかにした。

現地調査は、中国の場合、吉林省と黒竜江省にある高齢者介護施設、韓国の場合、晋州地域の高齢者施設であり、主に施設管理者やソーシャルワーカーから介護状況について意見を聴取した。高齢者介護政策の決定過程については、専門研究者を対象とした聞き取りとともに、小規模の研究諮問会議を開き、意見の聴取と意見および情報の交換を行った。

中国と韓国での諮問会議には、延辺大学の研究協力者、ソウルでの聞き取り調査には慶南科学技術大学の研究協力者に参加を求め、それぞれ北京とソウルで小会議を開き、研究の方向などについて協議を行いながら研究を進めた。

専門家意見調査の対象になった中国の専門研究者は、国策研究機関である中国社会科学院の研究者、延辺大学の教員数名であった。

韓国での聞き取り調査は、国策研究機関である韓国保健社会研究院の研究者たち、韓国社会政策研究院の研究者、円光大学と国立慶南科学技術大学の教員、延世大学の教員などを対象にして行った。

関連学会や研究集会を通して、中間報告会をおこない、多くの関連研究者から意見を聴取する方法も有効であった。

4. 研究成果

日中韓の高齢者ケア領域においては、1990年代以降市場化政策が推し進められてきているが、すでに1990年代の時点で、三国の福祉発展段階（脱商品化の水準）にはかなりの格差が存在していた。従って、ケアの市場化政策の効果や影響が異なる形で現れるはずである。本研究は「同一政策の異なる影響に関する東アジア比較研究」として設計された。そして、この研究を通して、高齢者介護分野において、ほぼ同じ政策基調の市場化政策が実施されたとしても、その影響、とくに低所得者への影響は異なる形としてあらわれることが証明された。

この研究は3年間の研究（2017年～2019年度）であったが、コロナの影響で2020年2月、韓国で開催される予定であった「研究報告に関する最終的打ち合わせ」の実施ができなくなり、そのために研究期間を一年間延長し、2021年3月に研究が終了した。ただ、研究活動そのものは2019年度に終了した。

3年間の研究を通して、計画された研究目的が達成された。現在介護保障を含む社会保障分野において、東アジア研究者集会の中では最大級である第13回国際社会保障フォーラム（2017.9.16～17、南京大学）で、中国と韓国の海外研究協力者それぞれ1人と3人で共同報告を行った。その後も、学会や研究会、研究集会に参加し、研究結果報告を行った。

1つ特記したいのは、この共同研究と佛教大学総合研究所が共同で、日中韓の研究者からなる研究グループを作り、日中韓それぞれの研究機関で年一回の研究報告会を開き、研究成果を広く発信してきたことである。3回にわたる共同研究報告会には、多くのフルペーパーを掲載した論文集が制作され、関係者・関係機関に配布された。

研究成果の一部は単著や共著として公刊されたが、後続公刊も準備している。

以上の成果は、研究目的からみた成果であるが、3年間の研究を進める過程で、福祉問題を研究する東アジア研究者のネットワークができたことは大きな成果であり、極めて重要な意味を持つ。例えば、東アジアにおける低所得者の介護問題については「韓国保健社会研究院と中国延辺大学、そして佛教大学」の研究ネットワークができ、後続研究が行われるようになった。この研究ネットワークは、これからの後続研究に役立つことが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 朴光駿 | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 家族主義の歴史文化的起源：日韓比較 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 第3回「東アジアにおけるケアと共生」国際学会議 in 京都報告論文集 | 6. 最初と最後の頁 97-112 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 朴光駿 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 朝鮮王朝の貧困政策と福祉政治 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 2019年韓国社会福祉政策学会春季学術大会基調講演、学会報告論文資料集 | 6. 最初と最後の頁 3-30 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 朴光駿 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 東アジア救貧事業現場からみた救貧政策の類型 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 第2回「東アジアにおけるケアと共生」を模索する国際会議論文集 | 6. 最初と最後の頁 57-76 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 朴光駿 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 共同体の哲学：相互義務システムとしての共同体 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 第1回「東アジアにおけるケアと共生」国際学会議 in 北京報告論文集 | 6. 最初と最後の頁 29-46 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 朴 光駿 | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 朝鮮王朝における倉制度の大規模化の思想的背景とその影響 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 社会福祉学部論集 | 6. 最初と最後の頁 133-152 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 朴光駿 |
| 2. 発表標題 中国扶貧政策の背景と展開：中国貧困線の変化からみた農村貧困の推移 |
| 3. 学会等名 (中国) 延辺大学・韓国保健社会研究院・佛教大学総合研究所共同学会議 (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 朴光駿 |
| 2. 発表標題 比較的観点からみた朝鮮王朝の貧困政策と福祉政治 |
| 3. 学会等名 (韓国) 延世大学福祉国家研究センターフォーラム (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 朴光駿 |
| 2. 発表標題 東アジア貧困政策歴史の比較：研究方法と事例 |
| 3. 学会等名 第20回グローバル社会政策フォーラム (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 朴 光駿、李 仁子、呉 英蘭 |
| 2. 発表標題 東アジア高齢者ケア問題と比較研究のための哲学的論議 |
| 3. 学会等名 第13回国際社会保障フォーラム（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|--|------------------|
| 1. 著者名 朴光駿 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 図書出版文社哲（韓国、ソウル） | 5. 総ページ数 540頁 |
| 3. 書名 朝鮮王朝の貧困政策：中国日本といかに異なっていたのか（韓国語） | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 朴 光駿 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 明石書店 | 5. 総ページ数 512 |
| 3. 書名 朝鮮王朝の貧困政策：日中韓比較研究の視点から | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 魯大明・朴光駿他 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 韓国保健社会研究院 | 5. 総ページ数 702 |
| 3. 書名 在外同胞生活実態に対する基礎研究－延辺地域を中心に（韓国語） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|----------------------------|--------------------------|----|
| 研究協力者 | 王 偉 (Wang Wei) | 中国社会科学院・日本研究所・研究員 | |
| 研究協力者 | 李 仁子 (Lee Renzi) | (中国) 延辺大学・人文社会科学院・准教授 | |
| 研究協力者 | 魯 大明 (Ro Dae Myung) | 韓国保健社会研究院・社会保障研究室・先任研究委員 | |
| 研究協力者 | 吳 英蘭 (Oh Young Ran) | 国立慶南科学技術大学・社会福祉学部・准教授 | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

| | |
|---|--------------------|
| 国際研究集会 第3回東アジアにおけるケアと共生を模索する国際会議 | 開催年 2019年～2019年 |
| 国際研究集会 第2回東アジアにおけるケアと共生を模索する国際会議 | 開催年 2018年～2018年 |
| 国際研究集会 「第1回東アジアにおけるケアと共生国際学術会議」 in北京 | 開催年 2017年～2017年 |

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | |
|---------|-----------|------------|------|
| 中国 | 中国社会科学院 | 延辺大学 | |
| 韓国 | 韓国保健社会研究院 | 国立慶南科学技術大学 | 円光大学 |